

2014年
10月3日(金)
産経

大阪市の中心部を縦断するメインストリート、御堂筋について、橋下徹市長は2日、ミナミの区間で本線の側道を閉鎖し、自転車専用レーンの設置と歩道の拡幅を行う方針を明らかにした。沿道のにぎわい作りが目的で、オープンカフェや路上イベントなどの誘致を進める。平成28年度から順次整備する方針で、橋下市長は「パリのシャンゼリゼ通りのようなストリートにしたい」としている。対象は新橋―難波西口交差点の約



大阪市が発表した御堂筋の「未来図」。現在の側道部分に自転車専用レーンができ、歩道も拡幅される

御堂筋「シャンゼリゼ」計画

自転車専用レーンや歩道拡幅

1・2キロ。幅約5メートルの側道部分に自転車専用レーンを整備し、余ったスペースを歩道拡幅に使う。現在は側道が荷降ろしにも使われているため、側道と本線を隔てる植え込みを縮小し、本線の端に停車スペースを確保する。

市は昨年11月に同区間で側道への車の進入を規制し、自転車専用レーンや歩道として使う社会実験を実施。同区間を含む約3・5キロの本線を車が通過する時間は30秒、4分程度長くなったものの、歩行者や自転車利用者から好評だった。今後は交通への影響の緩和策などについて大阪府警とも協議し、来年度予算案に必要経費を盛り込む。橋下市長は、同区間の北側で交通量の多い淀屋橋―新橋交差点の約1・9キロについても、将来的には同様の整備を行いたいとしている。